

# QR Newsletter



## 第四紀通信

Vol. 26 No.2, 2019



かわよう  
南阿蘇村河陽地区の県道 149 号線法面に現れた階段状正断層群。人物の腰から胸にかけての位置にある草千里ヶ浜降下軽石が切られている。この法面は既に被覆されており、他の露頭も短期間で消滅することが多い。(撮影：奥野 充)

---

---

Vol. 26 No. 2

April 1, 2019

---

2019 年大会案内 (第 4 報)..... 2	学生会員継続届け提出のお願い..... 9
日本地球惑星科学連合 2019 年大会 プログラム..... 4	紙碑..... 10
学会賞・学術賞記念講演会報告..... 8	評議員会議事録..... 11
役員選挙について..... 9	会員消息..... 16

---

---

## ◆日本第四紀学会 2019年大会案内 (第4報)

本大会は、一般研究発表(口頭およびポスター)、公開シンポジウム「関東平野東部における第四紀研究の最近の成果」、普及講演会「第四紀研究の最前線」、ジオパーク体験巡検および専門巡検を中心に、千葉科学大学と銚子ジオパークが共同で開催します。

### 1. 大会テーマ 「第四紀学とジオパークの連携」

### 2. 開催場所

8月23日(金)～24日(土) 千葉科学大学マリーナキャンパス(一般研究発表)

〒288-0025 千葉県銚子市潮見町15-8

<http://www.cis.ac.jp/information/access/index.html>

アクセス JR 総武線「銚子」駅下車、バスターミナルから千葉交通バス10分、「千葉科学大学マリーナ前」下車すぐ。

大学には学生用の駐車場がありますので、車による会場への来訪をお勧めします。

8月25日(日) 銚子市すこやかなまなびの城(公開シンポジウム)

〒288-0047 千葉県銚子市若宮町4-8(銚子市役所向かい)

[https://www.city.choshi.chiba.jp/sisei/about\\_choshi/profile/access.html](https://www.city.choshi.chiba.jp/sisei/about_choshi/profile/access.html)

### 3. 開催日程 2019年8月23日(金)～8月26日(月)

8月23日(金) 一般研究発表(口頭およびポスター)、評議員会、ミニジオツアー(昼休み、事前申し込み不要)

8月24日(土) 一般研究発表(口頭およびポスター)、総会・各賞授賞式、懇親会、ミニジオツアー(昼休み、事前申し込み不要)

8月25日(日) 公開シンポジウム、普及講演会、ジオパーク体験巡検

8月26日(月) 専門巡検「銚子地域の第四紀の地形・地質研究の最近の成果」

### 4. 各種締め切り日

・一般研究発表の申し込み・講演要旨原稿提出: 6月21日(金) 17時

シンポジウムの講演要旨原稿提出: 6月21日(金) 17時

専門巡検およびジオパーク体験巡検参加申し込み: 7月26日(金) 17時

・懇親会事前予約: 8月9日(金) 17時

### 5. 一般研究発表: 口頭発表・ポスター発表はそれぞれ1会場で開催します(予定)。

### 6. 公開シンポジウム「関東平野東部における第四紀研究の最近の成果」 銚子市すこやかなまなびの城

8月25日(日) 9時00分～9時45分 地質・構造発達 高橋雅紀(産総研)

9時45分～10時15分 層序・テフラ 鈴木毅彦(首都大学)

10時15分～10時30分 休憩

10時30分～11時00分 古生物 村上瑞季(秀明大学)

11時00分～11時30分 地形 田村 亨(産総研)

11時30分～12時00分 考古 一木絵理(上高津貝塚ふるさと歴史の広場)

### 7. 普及講演会「第四紀研究の最前線」 銚子市すこやかなまなびの城

8月25日(日) 13時30分～14時20分 年縞堆積物 北場育子(立命館大学)

14時30分～15時20分 津波堆積物からわかること 藤原 治(産総研)

15時20分～15時30分 質問タイム

### 8. ジオパーク体験巡検

8月25日(日) 13時00分～16時00分(予定)

銚子市内のジオサイトをバスで巡り、ジオパークの活動を体験していただきます。案内はジオパーク市民の会が行います。観察場所、費用の詳細は次号でお伝えします。

## 9. 専門巡検

8月26日(月) 9時00分～16時00分(予定)

銚子から九十九里をバスで巡り、地形・第四系を観察します。案内は、中里裕臣(農研機構)・岡崎浩子(千葉県立中央博物館)・田村 亨(産総研)が行います。観察場所、費用の詳細は次号でお伝えします。

## 10. 各種申し込みと講演要旨原稿の送付方法

### 1) 一般研究発表の申し込み

#### (1) 発表者の資格と発表件数の制限

一般研究発表には、口頭発表とポスター発表があります。筆頭発表者(資格は会員であること)としては、口頭発表およびポスター発表について、それぞれ1人1件の発表申し込みが可能です。

#### (2) 発表形式と発表時間

発表形式は、口頭発表(オーラルセッション)およびポスター発表(ポスターセッション)がありますので、発表申込用紙で希望する方を選択してください。発表件数によっては、必ずしも希望の形式にならない場合もありますので、あらかじめご了承ください。口頭発表(オーラルセッション)の時間は1件15分程度(質疑応答時間含む)を予定しています(発表件数によって変更の可能性があります)。十分な説明や討論を希望する方には、ポスター発表(ポスターセッション)への申し込みをお勧めします。また、ポスター発表者には、ポスターの前で説明するコアタイムを設ける予定です。

#### (3) 発表申込書と講演要旨の送付方法および締め切り

一般研究発表の希望者は、日本第四紀学会ホームページ(<http://quaternary.jp/>)の「2019年大会案内(第4報)」の「2019年大会のお知らせ」にある「発表申込書」と「講演要旨の原稿」へのリンク部分からファイルをダウンロードし、必要事項を記入の上、以下の案内に沿って申し込みを行ってください。講演申し込みと講演要旨原稿の提出をもって受付とします。

- ・発表申込書と原稿は添付ファイルとして専用のアドレス [jaqua2019\(at\)gmail.com](mailto:jaqua2019(at)gmail.com) に送付してください(atを@に変える)。メール件名は「発表申込\_筆頭発表者名」、添付するファイルの名前は「講演要旨\_筆頭発表者名」としてください。2件申し込む場合は題名の後ろにA、Bをつけて両者を区別して送信してください。受付期間は6月3日(月)から6月21日(金)の予定です。
- ・講演要旨の原稿はA4で1ページ(図表掲載可)です。「2019年大会のお知らせ」の「講演要旨原稿の書き方及びテンプレート」にある書き方にそって作成してください。
- ・本学会員のうち2019年8月1日現在で39歳以下の方は若手発表賞に、学生・大学院生の方は学生発表賞にエントリーできます。エントリー希望の方は、申込書の該当箇所に記入してください。積極的なエントリーを期待しています。

### 2) シンポジウム依頼講演者の講演要旨の送付方法および締め切り

シンポジウムはすべて依頼講演形式とします。シンポジウム依頼講演者の方は、10.1(3)「発表申込書と講演要旨の送付方法および締め切り」に従った形式のファイルを、専用アドレス([jaqua2019\(at\)gmail.com](mailto:jaqua2019(at)gmail.com))あてに電子メールの添付ファイルでお送りください。メールの件名とファイル名は「シンポジウム講演要旨:筆頭発表者名」としてください。

## 11. 大会・懇親会・巡検の参加費

- ・大会参加費(予定):2000円(会員・非会員を問わず)。会場受付でお支払いください。ただし、大学院生は1000円、70歳以上の会員、学部学生は無料です。
- ・講演要旨集:予定価格2000円(会場で直接販売。ただし、発表数等によって価格が若干変動する場合があります)。
- ・懇親会に参加される方は、申し込みをお願いします。

日 時:8月24日(土)18:30～(予定)

会 場:銚子電鉄に乗りながら行きます。

参加費:一般5000円(予約)、6000円(当日)、院生・学生3000円(予約)、4000円(当日)<確認中>

予約方法: 8月9日(金)17時までに、専用アドレス(jaqua2019(at)gmail.com)あてに電子メールでお申し込みください。申し込み時のメール件名は「懇親会\_氏名」としてください。

- ・ジオパーク体験巡検に参加される方は、申し込みをお願いします。

日時: 8月25日(日)13時00分~16時00分(予定)

定員: 40名

参加費: 1000円程度(予定)。詳細は次号でお伝えします。

- ・専門巡検に参加される方は、申し込みをお願いします。

日時: 8月26日(月)9時00分~16時00分(予定)

定員: 40名

参加費: 3000円程度(予定)。詳細は次号でお伝えします。

## 12. 大会実行委員会および行事委員会

大会実行委員長: 植木岳雪(千葉科学大)

大会実行事務局長: 岩本直哉(銚子ジオパーク)

実行委員: 小濱 剛・手束聡子(以上、千葉科学大)、糟谷大河(慶応大)・小川正俊・山内祥行・高根 咲(以上、銚子ジオパーク事務局)、工藤忠男・小玉健二郎(以上、銚子ジオパーク市民の会)

行事委員会: 藤原 治(産総研)・加 三千宣(愛媛大)・米田 穰(東京大)・岡田 誠(茨城大)・山田和芳(ふじのくに地球環境史ミュージアム)

連絡先: 2019年大会実行委員会事務局

〒288-0025 千葉県銚子市潮見町15-8 千葉科学大学危機管理学部 植木岳雪

TEL: 0479-30-4647、メール: tueki(at)cis.ac.jp

大会用メールアドレス: jaqua2019(at)gmail.com (atを@に変える)

## ◆日本地球惑星科学連合2019年大会プログラム

- ・期日: 2019年5月26日(日)~5月30日(木)
- ・会場: 千葉県幕張メッセ国際会議場・国際展示場/APAホテル東京ベイ幕張
- ・大会詳細: [http://www.jpogu.org/meeting\\_2019/](http://www.jpogu.org/meeting_2019/)
- ・早期参加登録締切: 5月8日(水)23:59

### ■第四紀学会開催(主催・共催)オーラルセッション

日時\* [セッション記号] セッション名(発表言語\*\*) (会場)

\*AM1=9:00~10:30 AM2=10:45~12:15 PM1=13:45~15:15 PM2=15:30~17:00

\*\*スライド・ポスター表記、口頭発表言語の順: J=日本語 or 英語(発表者選択) E=英語

5月26日 AM2+PM1 [H-QR05] 第四紀: ヒトと環境系の時系列ダイナミクス (J) (102)

5月27日 PM2 [M-IS08] ジオパーク (J) (103)

5月27日 PM2 [H-CG26] デルタとエスチュアリー: 複雑な河口システムへの学際的取り組み (E) (301B)

5月28日 PM2+29日 AM1~PM2 [S-SS15] 活断層と古地震 (J) (A02)

5月29日 AM2~PM2+30日 AM1+AM2 [M-IS19] 古気候・古海洋変動 (J) (304)

5月29日 PM2 [A-HW22] 流域の物質輸送と栄養塩循環—源流域から沿岸海域まで— (E) (201B)

5月30日 PM1 [H-DS15] 人間環境と災害リスク (J) (106)

5月30日 PM1+PM2 [M-IS03] アジア・モンスーンの進化と変動 (E) (304)

- ポスターセッションは、原則として、コアタイムがPM3(17:30~19:00)でオーラルセッションと同日に開催されます。ポスターは終日掲載されます。

■ 第四紀学会単独・主催セッションプログラム

紙面節約のため筆頭発表者のみ掲載します。(Web を参照してください。)

● H-QR05 『第四紀：ヒトと環境系の時系列ダイナミクス』

オーラルセッション：5月26日(日) 10:45～12:15 (会場：102 (幕張メッセ国際会議場 1F))

- 10:45~11:00 池原 研：地震による海底の擾乱とイベント堆積物の形成：海底堆積物を用いた地震履歴の解明に適した場所はどこか？ (招待講演)
- 11:00~11:15 鹿島 薫ほか：珪藻遺骸群集を指標とした巨大津波襲来時における気仙沼湾における急激な環境変動とその後の環境復旧過程の復元
- 11:15~11:30 Onema Christopher Adojoh ほか：Niger Delta dynamic phase in the Gulf of Guinea during the last 20 ka: Panacea for the sustainable development of the region
- 11:30~11:45 田村 亨ほか：関東平野東縁に MIS 5a-c 海成段丘は存在するか？ (招待講演)
- 11:45~12:00 青木かおりほか：房総沖掘削コア C9010E に介在するテフラ層序—速報として—
- 12:00~12:15 加藤佑一ほか：久慈川上流部棚倉付近における第四紀後期の河成段丘と河川争奪について

オーラルセッション：5月26日(日) 13:45～15:15 (会場：102 (幕張メッセ国際会議場 1F))

- 13:45~14:00 黒木貴一：宗像市沖ノ島の地形の特徴
- 14:00~14:15 遠藤邦彦ほか：東京台地部・低地部の地形・地質の再検討：大量ボーリング解析と精密地形解析に基づく (招待講演)
- 14:15~14:30 宇津川喬子ほか：武蔵野台地西縁部で観察される青梅層の堆積学的特徴
- 14:30~14:45 納谷友規ほか：東京層の層序の再検討：北区中央公園コアの再解析
- 14:45~15:00 中澤 努ほか：“ローム台地”のS波速度構造と地盤震動特性：宇都宮市東部地域を例に (招待講演)
- 15:00~15:15 谷 はるかほか：1948年福井地震の液状化分布と微地形分類との関係—液状化ハザードマップの改善に向けて—

ポスターセッション：5月26日(日) 15:30～17:00 (会場：幕張メッセ国際展示場 7 ホール)

1. 平林頌子ほか：ルソン海峡および琉球列島における完新世のローカル海洋リザーバー年代変動
2. 福興直人ほか：Holocene sea-level and paleoenvironmental reconstruction using radiocarbon local marine reservoir age and geophysical modeling in Tongatapu, Kingdom of Tonga
3. Cho Ara ほか：The environmental change from lagoon sediment along Nakai Trough in Japan during the past 2000 years.
4. 平峰玲緒奈ほか：青森県むつ市関根浜における海岸堆積物中の漂流軽石の発見と起源
5. 石原武志ほか：郡山盆地の3本のオールコアの層序対比と浅部地下地質構造解析
6. 木森大我ほか：DEM-GIS 解析からみた、氷期の開析地形による制約下での鬼怒川の完新世堆積作用と地形変化
7. 宮本 樹ほか：関東平野中央部、茨城県境町と埼玉県久喜市で掘削されたコアの XRF・テフラ・粒度分析に基づく堆積層序 (速報)
8. 杉中佑輔ほか：地質層序システムを活用した武蔵野台地東部の武蔵野礫層の空間分布
9. 白井正明ほか：相模川(桂川)上流域における富士相模川泥流堆積物の堆積学的特徴
10. 小関敏史ほか：新潟県信濃川・魚野川合流域周辺における段丘区分および地形発達過程について
11. 松本誠子ほか：福井県敦賀湾内における砂浜海岸堆積物の供給源の推定：粒度分析と碎屑粒子組成を中心として
12. 羽佐田紘大：濃尾平野内陸域のコア堆積物にみられる沖積層の特徴
13. 佐藤善輝：鈴鹿市南部における MIS5e 海成層の分布形態と推定される累積変位量
14. 吉田沙樹ほか：志摩半島志島低地で発見された天城カワゴ平 (Kg) テフラと津波履歴復元における意義
15. 石野有妃子ほか：バイオマーカー分析による完新統の大阪平野の環境変遷の評価
16. 葉畑光博ほか：宮崎平野における鬼界アカホヤテフラ降下前後の環境変化 (招待講演)
17. 田村糸子ほか：広域テフラ対比に基づく日本列島の前期更新世～鮮新世火山噴火史—その2：南九

州の火砕流堆積物の編年

18. 中里裕臣ほか：火山ガラスの微量元素組成に基づく Ks5 と類似するテフラの識別

19. Deepak Kumar Jha ほか：Climate, vegetation and fire history of the last ~100 ka from archaeological sites of Belan valley, north-central India

● S-SS15 『活断層と古地震』

オーラルセッション：5月28日（火）15:30～17:00（会場：A02（東京ベイ幕張ホール））

15:30~16:00 蝦名裕一：東北地方太平洋沿岸における歴史津波の史料・伝承をめぐって（招待講演）

16:00~16:15 小松原 琢：歴史時代における沈降卓越型逆断層の活動事例

16:15~16:30 石橋克彦：同時代史料による文禄五年閏七月九日（1596.9.1）の伊予・豊後地震

16:30~16:45 藤野滋弘ほか：地層に記録された東南海地域の歴史時代・先史時代の津波

16:45~17:00 Discussion

オーラルセッション：5月29日（水）9:00～12:15（会場：A02（東京ベイ幕張ホール））

09:00~09:15 Introduction

09:15~09:30 吾妻 崇ほか：北海道東部、標津断層帯における新たな断層変位地形とその活動性調査

09:30~09:45 渡辺満久：六ヶ所断層の活動による海成面の変形

09:45~10:00 穴倉正展ほか：奄美群島喜界島におけるサンゴマイクロアトールの分布と年代からみた過去約 600 年の地殻上下変動

10:00~10:15 高橋直也ほか：活断層の地震時変位量は地震サイクル毎にどう変化するか—糸魚川—静岡構造線活断層帯神城断層における例

10:15~10:30 池口直毅ほか：糸魚川—静岡構造線活断層系神城断層における高解像度極浅層 S 波反射法地震探査

10:45~11:00 近藤久雄ほか：糸魚川—静岡構造線断層帯・神城断層の未破壊区間における古地震調査

11:00~11:15 木村治夫ほか：糸魚川—静岡構造線活断層系中北部区間における P 波反射法地震探査

11:15~11:30 小森純希ほか：関東地震発生履歴解明のための房総半島離水低地の堆積構造調査

11:30~11:45 並木 亮ほか：ボーリングコア解析と物理的断層モデルに基づく富士川河口断層帯入山瀬断層の位置と活動性推定

11:45~12:00 澤井祐紀ほか：珪藻化石群集と大型植物化石から推定される静岡県浮島ヶ原低地の沈水イベント

12:00~12:15 Discussion

オーラルセッション：5月29日（水）13:45～17:00（会場：A02（東京ベイ幕張ホール））

13:45~14:00 石山達也ほか：高分解能反射法地震探査から明らかになった石狩低地帯北部の伏在断層とその変動地形

14:00~14:15 石村大輔ほか：熊本県西原村、出ノ口断層における古地震調査

14:15~14:30 宮下由香里ほか：熊本県日奈久断層帯の古地震調査：八代市トレンチ調査結果速報

14:30~14:45 大上隆史ほか：日奈久断層帯海域部におけるサイズミックトレンチング—横ずれ海底活断層の三次元構造と活動履歴の解明

14:45~15:00 山口 覚ほか：2016 年熊本地震において断層すべり量が異なる 2 つの地域の浅部比抵抗構造

15:00~15:15 奥村晃史ほか：ネパール中部プトワル周辺におけるヒマラヤ前縁衝上断層の最新活動時期

15:30~16:00 藤原 智ほか：SAR で見るお付き合い地震断層—熊本地震、大阪府北部の地震及び北海道胆振東部地震（招待講演）

16:00~16:15 今野明咲香ほか：小型 UAV を用いたレーザ測量による森林下の微地形取得—2008 年岩手宮城内陸地震時の地震断層を例に—

16:15~16:30 野村俊一ほか：不確定な活動時期をもつ繰り返し地震に対する更新過程のベイズ推論と予測

16:30~16:45 Zakeria Shnizai ほか：Slip rate of the Chaman fault: estimates based on 10Be exposure

dating for offset geomorphic surfaces in Afghanistan

16:45~17:00 Discussion

**ポスターセッション：5月28日（火）13:45~15:15（会場：幕張メッセ国際展示場7ホール）**

1. 田近 淳ほか：ランドスライドから見た北海道厚真町の古地震
2. 岡田真介ほか：青森湾西岸断層帯を横断する重力探査とその地下構造（その2：岩石密度測定値を使った地下構造の推定）
3. 原田智也ほか：1611年慶長三陸地震は2011年東北地方太平洋沖地震と同様の超巨大地震だったか？
4. Jhih Hao Liao ほか：Neotectonic characteristics along both flanks of the Ou Backbone Range, Tohoku Region, Japan, from fluvial geomorphic analyses
5. 井内義郎：茨城県東南部、霞ヶ浦湖底堆積物における過去約700年間の津波記録—予報—
6. 小川万次ほか：三浦半島における常時微動観測による伏在断層の検出
7. 小田龍平ほか：北伊豆断層帯周辺に分岐活断層の分布・形状とその変位速度
8. 水谷光太郎ほか：糸魚川—静岡構造線断層帯神城断層南部における活動履歴調査
9. 津久井脩平ほか：長野県南部、伊那谷断層帯の構造発達史
10. 西田敦士ほか：阿寺断層において最近数回のみ変位を生じた断層破碎帯の特徴
11. 下茂道人ほか：可搬型キャビティリングダウン分光装置を用いた地表付近の極微量メタンガス濃度測定による活断層位置の特定：阿寺断層での測定事例
12. 郡谷順英ほか：岐阜県西部白川断層沿いで新たに発見した活断層の地形学的証拠
13. 田力正好ほか：福井県北部、丹生山地周辺の活断層
14. 松多信尚ほか：濃尾地震の被害から検証する岐阜—一宮線
15. 山口 寛ほか：郷村断層帯における地表から震源域にいたるまでの比抵抗構造の解明
16. 小林貴幸ほか：徳島平野北縁断層の浅部S波反射法データの再解析および再解釈
17. 谷川 亘ほか：南海地震の災害記録を海底地形・海底面調査から掘り起こす：高知県須崎市野見湾を例に
18. 杉戸信彦ほか：安乗口海底谷における南海トラフ周辺海底活断層の変動地形学的・古地震学的調査—有孔虫分析と放射性炭素年代測定—
19. 中埜貴元ほか：阿蘇カルデラ外輪山北西部、的石牧場I断層周辺の浅部地下構造調査
20. 宇根 寛ほか：阿蘇外輪山北西部の「お付き合い断層」の掘削調査結果と地形変位からみた活動履歴
21. 栗田泰夫：ステレオ等値線図による3次元SAR解析データの可視化—2016年熊本地震に伴う地震断層の高精度検出—
22. 中田 高ほか：ALOS 30 DEMの3D画像判読によるモンゴルの活断層図試作
23. 中村 衛ほか：地中レーダを用いた台湾山脚断層の検出
24. Sze-Chieh Liu ほか：Paleo-earthquake records of the Hengchun offshore structure, southern Taiwan
25. 杉本 惇ほか：2018年9月に発生したインドネシア・スラウェシ島地震のLC-InSAR解析
26. 金田義行ほか：Risk evaluation and disaster education around the coastal areas of Sea of Marmara, Turkey through the fault model construction of the North Anatolian Fault
27. 立石 良ほか：断層ガウジの化学組成を用いた多変量解析による断層活動の有無の推定
28. 竿本英貴ほか：ベイズ最適化と有限要素法に基づく断層面形状探索—スリップパーティショニングの最大化を例として—

◆日本第四紀学会 2018 年学会賞・学術賞受賞記念講演会（第 1 回）開催報告

日本第四紀学会行事委員長 藤原 治

2019 年 1 月 27 日に、標題の講演会が早稲田大学 22 号館で開催された。講演者は学会賞を受賞された竹村恵二会員（京都大学名誉教授）と、学術賞を受賞された塚本すみ子会員（Leibniz Institute for Applied Geophysics）の 2 名だった。竹村会員の受賞タイトルは「西南日本第四系の火山灰層序によるテクトニクスおよび環境変動の研究」、塚本会員の受賞タイトルは「ルミネッセンス法及び ESR（電子スピン共鳴）法を用いた高精度年代測定法の研究」である。講演会は冷え込みの厳しい日曜日の午後の開催であったが、46 名の参加があり盛会であった。齋藤会長からの挨拶に続いて、竹村会員、塚本会員の順で講演が行われた。

竹村会員は「西南日本の第四紀変動論」と題して講演された。その内容は 40 年以上にわたる竹村会員の経歴を振り返るもので、若い時期の研究スタイルの形成から、大学スタッフとなられてからの研究と教育の視点・ポリシー、さらには兵庫県南部地震以降の自然災害への取り組みなど、多岐にわたった。多くの聴講者が時には映し出された古く懐かしい写真に笑いを漏らし、時には講演内容に頷きながら、時間が過ぎるのを忘れて聞き入っていた。「第四紀学は時間と空間を扱うもの」という考えが、地質学（層序学）をバックボーンとした竹村会員の終始一貫した研究の姿勢である。地質学だからこそ扱える長い時間と広大な空間の概念（火山灰層序が生きている）、地層や地形に記録された地殻変動や火山噴火、様々な環境変動を解釈する技術と知識、多くの研究者・学生と共同で働くことの重要性、それをまとめ上げていくリーダーシップのあり方、さらに研究成果を社会に生



竹村恵二会員（久保純子撮影）

かしていく活動の実践（関西空港プロジェクト、南海トラフ巨大地震対策、市民科学のプロモーション、ジオパークなど）まで、科学者の姿勢を改めて考えさせられる講演であった。

塚本会員は「超低温熱年代学で探る日本の山地の隆起と侵食」と題して講演された。「超低温」とは何だろう、それって何度？などと興味をそそられるタイトルである。講演内容は、ルミネッセンス法や ESR 法を応用した熱年代学の開発が進んでおり、それを使うとこんなことができる、というレビューと最新の研究の紹介であった。それでも熱年代学と言うのは聞くだけで難しい気がする。実は、塚本会員には事前に事務局から「聴講者には専門家でない人も多いので、出来るだけ易しい内容にしてください」とお願いしてあった。そのお願いを聞いていただいて、講演では「ルミネッセンス法、ESR 法とは何か」、「熱年代学とは何か」、今ホットな研究「日本アルプスの隆起と侵食」という内容をお話し頂いた。これ以上易しい熱年代学の講演はおそらく無いだろう。聴講者には熱年代学と言う名称を聞いたことはあるがよく分からないと言う人が多かったと思うが、今回は「ああそうか」と幾らかは理解が進んだのではないだろうか。会場からの質問も多く、今後の展望についての議論もあり、講演は盛り上がった。さて、「超低温」の謎だが、これは鉱物を使った年代測定で重要な問題となる「閉鎖温度」のことである。閉鎖温度が低いほど岩石が地表に接近して冷えてきた若い時代の冷却史が分かるので、ルミネッセンス法や ESR 法によって若い時代の年代測定が可能になるというお話しであった。



塚本すみ子会員（久保純子撮影）



### ◆ 2019-2020 年度役員選挙について

2019年3月4日付の会告で選挙管理委員会からお知らせがありましたとおり、会則第11条、第12条および役員選挙規程に基づき、役員選挙が実施されております。今回からウェブ投票が導入されることとなり、4月3日（水）正午から4月24日（水）正午まで投票を受け付けております。ウェブ投票方法につきましては、選挙管理委員会が作成した資料がマイページに掲載されますので、そちらをご確認ください。

みなさまからの投票をお待ちしております。

#### 【投票の予定】

4月3日（水）12:00 から投票受付開始、マイページへ会告（候補者報告、投票方法の案内）を掲載

4月24日（水）12:00 に投票締切

4月25日（木）郵便による投票の受付締切（事前に申請された方のみ対象）

4月26日（金）開票

### ◆ 学生会員の皆さまへ「学生会員継続届け」提出のお願い

日本第四紀学会では、学生会員は、毎年在籍中であることを「学生会員継続届け」として提出して頂くことになっています。

2019年度（2019年8月1日～2020年7月31日）を学生会員として継続希望される方は、A4判の用紙（様式自由・ワープロ使用）に、申請者の所属・学年・氏名・連絡先・指導教官氏名を明記のうえ、指導教官の署名または捺印を添えてお送りいただくか、有効期限が明記された学生証のコピーを2019年6月22日（土）までに日本第四紀学会事務局まで郵送またはメール添付にてお送り下さい。

本届が提出されない場合は、2019年度第1回目会費請求時に、正会員会費にて会費請求がされますので、ご注意ください。

また、日本学術振興会特別研究員（PD）や科学技術特別研究員などは通常会員となります。

問合先・送付先：〒169-0072 東京都新宿区大久保2丁目4番地12号  
新宿ラムダックスビル 日本第四紀学会事務局

E-mail：daiyonki(at)shunkosha.com

TEL：03-5291-6231 / FAX：03-5291-2176

提出方法：郵便もしくはメール添付にてお送りください。

## ◆ジョン・チャペル博士を偲んで

オーストラリア国立大学名誉教授、オーストラリア学士院会員、国際第四紀学連合の名誉会員のジョン・チャペル博士が2018年10月4日にがんのために逝去された。享年78歳であった。同博士は、第四紀研究、古気候、海面変化、自然地理学一般などについての学際的、国際的研究で知られている。特に、パプアニューギニアのヒュオン半島におけるサンゴ礁段丘に基づく段丘形成に関する海面変化と地殻変動との役割を論じた研究(1974)は、段丘形成に関する研究として世界的に引用されている。ちなみにこの論文は、オーストラリア国立大学での博士論文であった。博士を悼む弔辞には、『巨星墜つ』の表現が使われているが、まことに博士はその表現にふさわしい方であった。自分の研究地域にほかの研究者が入ることを嫌がる人もしばしばあったが、博士はむしろ歓迎し、国際的研究を発展させた。さらに、自己の研究を地元へ還元することにも意欲的で、地元の人たちとの交流を積極的におこなった。

日本にも度々訪問され、日本の研究者との交流も深かった。日本では、南は沖縄、喜界島から四国、伊豆半島、信濃川地域、佐渡島から北は稚内まで広い地域に亘って日本の地形の特色を論じられた。それらの知見は、『日本の地形学—印象と覚書』としてUP337号(2002)にまとめられている。

同博士は、オーストラリア国立大学を定年退職後、生まれ育ったニュージーランドにもどられ、南島のダニーデンにおいて、ヘレン夫人、猫のネオンと静かな研究生活を続けておられた。同博士が意図されていた研究は幾つかあるが、主なものとして、ヒュオン半島の成果をピジン英語でまと



ヒュオン半島ボボンガラにて、ひとりで草むらに居る

める事(現地での成果の還元のため)、及び数回にわたる国際協同研究の総括がある。後者については、1988年以降の成果のうちで未発表のものを取りまとめる予定でこの10年来準備を進め、筆者もその一端を担ってきた。その仕事がやっと終わりに近づいてきた矢先に同博士からの助言を受けられなくなったことは痛恨の極みである。

この仕事を御霊前に供えることを誓う次第である。

太田陽子



ヒュオン半島シアルム付近にて、子どもたちとともに

## ◆日本第四紀学会 2018 年度第 2 回評議員会議事録

日時：2019 年 1 月 27 日（日） 10:00～12:00

場所：早稲田大学 22 号館 2 階 201 教室

出席：齋藤文紀（会長）、鈴木毅彦（副会長）、  
青木かおり、吾妻 崇、池原 研、奥野  
充、北村晃寿、工藤雄一郎、久保純子、  
小荒井 衛、里口保文、宍倉正展、須貝俊彦、  
高原 光、竹村恵二、兵頭政幸、藤原 治、  
三浦英樹、百原 新、横山祐典（以上、評  
議員）、陶野郁雄（名誉会員）

欠席：阿部彩子、出穂雅実、卜部厚志、岡田 誠、  
奥村晃史、海部陽介、苅谷愛彦、公文富士夫、  
小森次郎、近藤 恵、中川 毅、長橋良隆、  
松浦秀治、目代邦康、米田 穰

藤原行事委員長の司会で開会し、齋藤会長が挨拶  
を行った。宍倉議長代理の進行により、定足数の  
確認が行われた後、以下の活動報告および審議が  
行われた。

- 1) 資料 1 に基づき、各委員会の委員長および領域  
代表から 2018 年度上期の活動報告が行われた。
- 2) 資料 2 に基づき、会計委員長から 2018 年度上  
期における予算執行状況が報告された。

3) 2018 年度論文賞選考委員会の委員任命につ  
いて審議し、各領域から推薦があった下記の 5 名を  
委員とすることが承認された。

横山祐典（領域 1）、田力正好（領域 2）、納谷友規（領  
域 3）、近藤 恵（領域 4）、前李英明（領域 5）

4) 2018 年度学会賞選考委員会委員の任命につ  
いて審議し、「日本第四紀学会 顕彰規程」第 11 条お  
よび第 15 条に従い、会長、前会長および領域か  
ら推薦があった 3 名を含めた下記の 5 名を委員と  
することが承認された。

齋藤文紀（委員長・会長・領域 1）、小野 昭（前  
会長・領域 4）、久保純子（領域 2）、中村俊夫（領  
域 3）、遠藤邦彦（領域 5）

5) 2019-2020 年度役員選挙の選挙管理委員会委員  
の任命について審議し、会長より推薦があった下  
記の 5 名を委員とすることが承認された。

石村大輔、石輪建樹、岩瀬 彬、大上隆史、  
杉戸信彦

6) 今回の役員選挙から使用されるウェブ投票シ  
ステムについて、庶務委員長から説明があった。

7) 電磁的な評議員会の実施方法について意見交換  
を行い、具体的な対応について執行部会で検討す  
ることとした。

## 【資料 1】2018 年度事業中間報告（2018 年 8 月 1 日～2018 年 12 月 31 日）

## 1. 庶務委員会

- 1) 総会（8 月 25 日）・評議員会 1 回（8 月 24 日）・執行部会 4 回（8 月 2 日・8 月 24 日・10 月 30 日・  
12 月 24 日）の開催準備および資料作成を行った。
- 2) 電磁的な評議員会 1 回（10 月 17～24 日）・電磁的な執行部会 1 回（9 月 22～28 日）の審議準備を行った。
- 3) 会員情報の管理を行った。2018 年度上期（12 月 31 日時点）における会員数は以下の通りである。  
正会員 1,067 名（うち学生会費適用者 32 名）、賛助会員 9 社、名誉会員 17 名。  
逝去会員：熊井久雄会員（名誉会員・元会長）、辻本崇夫会員
- 4) 学会賞、学術賞、若手学術賞、論文賞、奨励賞の受賞候補者の推薦募集を行い、1 月 18 日までに学会  
賞 1 名、学術賞 1 名の推薦を受け付けた。
- 5) 転載許可申請への対応および受け入れ図書の整理を行った。
- 6) 学会・シンポジウム等の共催・後援に関連する業務を行った。
- 7) 学会活動に関するその他の庶務業務を行った。

## 2. 会計委員会

- 1) 会計に関する承認業務を行った。
- 2) 2018 年度総会において 2017 年度の収支決算を報告するとともに、2018 年度の予算を提案した。

## 3. 編集委員会

1) 第四紀研究第 57 巻第 5 号（特集号 3 編、39 頁）、第 6 号（特集号 2 編、論説 1 編、短報 1 編 65 頁）  
を刊行した。第 57 巻の総頁数は 237 頁である（第 56 巻・274 頁、第 55 巻・273 頁、第 54 巻・367 頁、  
第 53 巻・334 頁）。第 57 巻の構成は論説 1 編、短報 3 編、資料 2 編、特集 9 編、受賞記念 1 編である。

- 2) 2018 年日本第四紀学会・学会賞・学術賞受賞者に受賞記念論文を依頼した。第 58 巻以降に掲載予定である。
- 3) メール編集委員会を 5 回（2018 年 9 月 21 日～10 月 4 日、11 月 18～25 日、11 月 30 日～12 月 7 日、12 月 10～16 日、12 月 20～24 日）開催した。2019 年 1 月 15 日現在、受理済み原稿（書評を除く）は 10 編（58 巻第 2 号以降に掲載予定）、手持ち原稿は論説 6 編、短報 6 編（特集号 11 編を除く）である。なお、特集号・雑録・書評を除く投稿数は、2018 年は 14 編（2017 年・17 編、2016 年・22 編、2015 年・12 編、2014 年・17 編）であった。
- 4) 2018 年 10 月 31 日付けで、領域 4 の編集委員の山岡拓也会員が辞め（海外研修のため）、11 月 1 日付けで、後任に亀井 翼会員が委員となった。
- 5) J-STAGE による電子ジャーナル化を行っており、現在のところ 57 巻 6 号までのアップロードと公開（認証あり）が完了し、56 巻 5 号まではフリーとなっている。
- 6) 第四紀研究の投稿規定・執筆要項の一部改訂を行った（2019/1/12）。
- 7) 国立国会図書館利用者サービス部科学技術・経済課 企画運営係（学協会アンケート担当）に回答した（2018/12/11）。
- 8) 「J-STAGE ご利用者様アンケート（発行機関向け）」に回答した（2019/1/15）。

#### 4. 行事委員会

- 1) 日本第四紀学会 2018 年大会「自然環境と人類将来予測に向けた第四紀学の最先端」を首都大学東京等において 8 月 24 日（金）～28 日（火）に開催した。8 月 27 日（月）～28 日（火）には、大会巡検「伊豆諸島、新島火山の地形と噴火史」を実施した。
- 2) 日本第四紀学会 2019 年大会を 2019 年 8 月 23 日（金）～8 月 26 日（月）の日程で千葉科学大学（マリーナキャンパス）で開催する予定で、関係者と検討を行い、その準備を行った。
- 3) 日本第四紀学会 2020 年大会を 2020 年 8 月に大阪市立大学で開催する方向で調整中。
- 4) 2019 年 1 月 27 日（日）に早稲田大学で開催する 2018 年学会賞・学術賞受賞記念講演会（第 1 回）の準備を行った。

#### 5. 広報委員会

- 1) 広報委員会を組織して、第四紀通信の編集およびホームページの維持管理を行った。
- 2) 「第四紀通信」第 25 巻 5、6 号を編集し、発行した。
- 3) 「第四紀通信」上記各号の電子版（pdf 版）を、それぞれ発行前月の中旬に日本第四紀学会ホームページに掲載した。
- 4) 日本第四紀学会ホームページを通じて広報、情報提供、アウトリーチ活動等を行った。
- 5) 日本第四紀学会ホームページだいよんき Q&A を通じた質問に対応した。
- 6) 日本第四紀学会会員メーリングリストを通じて各種情報提供等を行った。
- 7) 日本第四紀学会評議員会メーリングリストおよび日本第四紀学会幹事会メーリングリストの管理を行った。

#### 6. 渉外委員会

- 1) 日本地球惑星科学連合に 2019 年大会のセッション『第四紀一ヒト・環境系の時系列ダイナミクス』、『活断層と古地震』を提案した。
- 2) 防災学術連携体の活動に参加し、10 月 13 日（土）・14 日（日）に「東京ビックサイト」および「そなエリア」で開催された『第 4 回防災推進国民大会』において、鈴木毅彦会員がポスター発表を行った。
- 3) 自然史学会連合の行事に関する業務を行い、12 月 22 日に東京大学総合研究博物館で開催された平成 30 年度の総会に、渉外委員の工藤雄一郎会員が出席した。
- 4) 日本ジオパーク委員会の活動に第四紀学会から審査委員を 2 名出し、協力した。

#### 7. 領域 1

- 1) 2016 年千葉大会の領域 1「気候変動及び海洋の諸プロセス」シンポジウム特集（論文 2 編）を第四紀研究第 57 巻 6 号として出版した。もう 1 編は次号以降に掲載される予定である。
- 2) 2018 年大会にて開催された大会シンポジウムにおいて、領域と学会全体の発展に期するため、会員外

の3名を含む5名の講演者を招いて、気候変動及び海洋の諸プロセスについての最新の研究成果の講演をいただいた。

3) 2018年11月13日～14日に東京大学大気海洋研究所で開催された研究集会「海底堆積物から地震履歴をどこまで読み取れるのか」を後援した。集会では50名程度の参加者があり、19件の口頭発表と6件のポスター発表がなされた。

## 8. 領域2

1) 2016年千葉大会の領域2「陸上の諸プロセス」シンポジウム特集(論文3編)を第四紀研究第58巻1号として出版する。

2) 2018年大会にて開催された大会シンポジウムにおいて、領域と学会全体の発展に期するため、洞窟考古・地震学の新展開をテーマに、会員外の3名を含む講演者が6題の講演を行った。

## 9. 領域3

1) 国際地質科学連合(IUGS)の第四紀層序小委員会(SQS)において、千葉縣市原市の地層「千葉セクション」が地質時代の「前期—中期更新世境界」の国際標準模式地(GSSP)として承認され、次の審査段階である国際層序委員会(ICS)に答申されたことの情報発信を学会メーリングリスト、学会ホームページにて行った。

2) 国際的に学術的価値が高いと認められる、国内の第四紀地層に関する情報発信を学会ホームページで行うことを決めた。その候補を絞り込み、ホームページ記事の作成作業を開始した。

3) 2018年大会にて開催されたシンポジウムにおいて、2名の会員と1名の会員外の講演者を招き、第四紀の層序と年代に関わる最先端研究の講演を行った。

## 10. 領域4

1) 2018年大会にて開催された大会シンポジウムにおいて、2名の会員外の講演者を招いて、最終氷期最盛期の植生について、種分布モデル、分子遺伝学、古生態学からのアプローチの3題の講演を行った。

## 11. 領域5

1) 2018年12月8日(土)にお茶の水女子大学においてジオパークシンポジウム「日本列島の第四紀多様性:ジオパークの基礎として」を開催し、約70名の参加があり、13件の口頭発表がなされた。今後、講演をもとに第四紀研究特集号ないしは普及書にまとめる予定である。

## 12. 日本学術会議・INQUA 関連

2017年10月から日本学術会議は第24期に入っており、INQUA分科会は国際連携分科会の下にINQUA小委員会となっている。今期は、前期の2015年7月～8月に開催されたINQUA名古屋大会に関連してのとりまとめ作業、アジア第四紀学会(2017年9月済州島、韓国)への取り組み、下部と中部の第四系境界の国際模式地(国際境界模式層断面とポイント:GSSP)への千葉セクション申請へのサポート、2019年のINQUA大会に向けて顕彰候補者の日本からの推薦(Honorary Life Fellow, The Sir Nicholas Shackleton Medal)が主要な取り組みとなっている。INQUA名古屋大会に関連してINQUAの学術誌であるQuaternary Internationalから日本特集号が3巻2017–2018に出版された(vol. 455, pp. 1–170, October 2017; vol. 456, pp. 1–216, October 2017; vol. 471, Part B, pp. 253–396, April 2018)。この他にも日本人がゲストエディターに加わった特集号が今期に7巻出版されるなど、日本の研究成果を広く世界に発信されてきている。

アジア第四紀学会第3回大会は2017年9月に済州島で開催され、12ヶ国から200名が参加し、日本からも20名が参加した。同会議の成果についてもQuaternary Internationalから2巻出版の予定である。

GSSPへの千葉セクション(チバニアン)の申請については、2017年6月に正式な提案が行われ、2017年11月にワーキンググループでの審査を通過し、2018年11月に第四系層序小委員会においても承認された。今後は、提案書の修正を行った後再提出し、国際層序委員会、国際地質科学連合理事会で審議されることになる。この夏に行われるINQUAダブリン大会へは、出穂雅実代表、小口 高副代表で派遣することになった。

## 【資料 2】2018 年度会計中間報告

2018 年度収支会計中間報告  
(2018 年 12 月 31 日現在)

## 収入の部

(単位：円)

科 目	予算額①	12 月 31 日現在	増減②-①	摘 要
会費収入	10,240,000	8,091,841	-2,148,159	
正会員会費収入	10,000,000	7,851,841	-2,148,159	正会員 7,685,000 円 学生会員適用者分 110,000 円 海外在住者分 56,841 円
賛助会員会費収入	240,000	240,000	0	20,000 円×9 社 (12 口)
誌代	1,000,000	630,932	-319,068	要旨集売上, 定期雑誌購入, Back No
別刷代・超過頁代収入	750,000	89,564	-660,436	57 巻 4 号～57 巻 5 号別刷代
雑収入	500,000	493,193	-6,807	2018 年大会余剰金, デジタルブック, JST, 著作権料収入等
利子収入	5,000	500	-4,950	預金利息
広告料収入	20,000	15,000	-5,000	2018 年大会予稿集(2 社)
役員選挙積立金取崩収入	350,000	0	-350,000	
INQUA 対策積立金取崩収入	300,000	0	-300,000	
名簿作成積立金取崩収入	0	0	0	
予備費積立金取崩収入	0	0	0	
収入合計	13,165,000	9,370,580	-3,794,420	
前期繰越金	17,522,459	17,522,459	0	
合計	30,687,459	26,893,039	-3,794,420	

## 支出の部

(単位：円)

科 目	予算額①	12 月 31 日現在	増減②-①	摘 要
会誌発行費	4,400,000	1,303,992	-3,096,008	
印刷費	2,500,000	1,259,256	-1,243,744	第四紀研究 57 巻 4 号～57 巻 6 号 (各 1300 部)
編集費	500,000	0	-500,000	※年度末精算
編集人件費	1,200,000	0	-1,200,000	※年度末精算
別刷印刷費	200,000	47,736	-152,264	第四紀研究 57 巻 4 号～57 巻 6 号
会誌・会報発送費	600,000	230,743	-369,257	第四紀研究 57 巻 4 号～57 巻 6 号
会報発行費	810,000	462,078	-347,922	
印刷費	550,000	304,236	-245,764	第四紀通信 25 巻 4 号～25 巻 6 号(各 1200 部)
編集費	70,000	66,842	-3,158	第四紀通信編集費
編集人件費	190,000	91,000	-99,000	第四紀通信編集アルバイト代
学会 HP 運営費	150,000	58,950	-91,050	HP 更新アルバイト代, ドメイン更新料等
大会運営準備金	380,000	0	-380,000	2019 年大会 (千葉科学大学)
巡検準備金	100,000	0	-100,000	2019 年大会 (千葉科学大学)
講演会・シポジウム費	100,000	0	-100,000	
予稿集印刷費	250,000	191,160	-58,840	2018 年大会講演要旨集 (200 部)
学会賞等顕彰費	150,000	113,763	-36,237	副賞 1 名 (50,000 円), 賞状作成費
通信費	400,000	197,518	-202,482	会費請求書発送郵税, 事務通信費等
会議費	10,000	6,804	-3,196	第 1 回執行部会会議室使用料
旅費・交通費	600,000	216,130	-383,870	執行部会等交通費
印刷費	450,000	204,973	-245,027	学会専用封筒, コピー代
業務委託費	2,400,000	1,026,000	-1,374,000	事務委託費概算払分
領域活動費	750,000	93,122	-656,878	施設利用料(領域 5)・交通費等(領域 1, 4, 5)
INQUA 対策費	400,000	0	-400,000	
役員選挙費	700,000	0	-700,000	
名簿作成費	0	0	0	
INQUA 対策積立金繰入支出	0	0	0	
役員選挙費積立金繰入支出	0	0	0	
名簿作成積立金繰入支出	300,000	0	-300,000	
予備費積立金繰入支出	0	0	0	
加盟学協会分担金支出	60,000	0	-60,000	地球惑星科学連合, 自然史学会連合分担金
国際科学技術コンテスト協賛金支出	50,000	0	-50,000	国際地学オリンピック協賛金
雑費	55,000	33,950	-21,050	熊井元会長葬儀用生花・弔電, 振込手数料等
予備費	50,000	0	-50,000	
支出合計	13,165,000	4,139,183	-9,025,817	
次期繰越金	17,522,459	22,753,856	5,231,397	
合計	30,687,459	26,893,039	-3,794,420	

**貸借対照表**  
(2018年12月31日現在)

(単位：円)

借方		貸方	
科目	金額	科目	金額
流動資産		流動負債	
郵便振替	11,011,940	前受会費	63,000
小口現金	1,898,723		
普通預金	8,289,607	小計	63,000
現金(事務局)	44,039	正味財産	
未収金	22,547	名簿作成積立金	300,000
固定資産		役員選挙積立金	350,000
定期預金	10,000,000	INQUA対策積立金	300,000
		予備費積立金	7,500,000
		次期繰越金	22,753,856
		(前期繰越金	17,522,459)
		(当期収支差額	5,231,397)
		小計	31,203,856
合計	31,266,856	合計	31,266,856

**財産目録**  
(2018年12月31日現在)

## 資産の部

(単位：円)

科目	摘要	金額
郵便振替	郵便局(年会費振込専用口座)	11,011,940
小口現金	編集書記手許金	1,898,723
普通預金	みずほ銀行早稲田支店	8,083,651
普通預金	三井住友信託銀行本店営業部	205,956
現金	事務局手持ち金	44,039
未収金	別刷代・超過頁代収入	22,547
流動資産合計		21,266,856
定期預金	三井住友信託銀行本店営業部	10,000,000
固定資産合計		10,000,000
合計		31,266,856

## 負債の部

(単位：円)

科目	摘要	金額
前受会費	2019年度以降年会費	63,000
合計		63,000

## 正味財産の部

(単位：円)

科目	摘要	金額
名簿作成積立金	名簿作成積立金	300,000
役員選挙積立金	役員選挙積立金	350,000
INQUA対策積立金	INQUA対策積立金	300,000
予備費積立金	予備費積立金	7,500,000
次期繰越金		22,753,856
	前期繰越金	17,522,459
	当期収支差額	5,231,397
合計		31,203,856

★★★ 第四紀通信に情報をお寄せ下さい ★★★

第四紀通信の原稿は随時受け付けております。

広報委員長：百原 新 (arata(at)faculty.chiba-u.jp) 宛にメールでお送り下さい。

第四紀通信は奇数月月上旬原稿締め切り、偶数月 1 日刊行予定としていますが、情報の速報性  
ということから、版下が完成した段階でホームページに掲載するよう努力しています。

奇数月 20 日頃にはホームページにアップするようになっていますのでご利用下さい。

日本第四紀学会広報委員会 千葉大学大学院 園芸学研究科 百原 新  
〒 271-8510 千葉県松戸市松戸 648 FAX : 047-308-8720

広報書記：那須浩郎・糸田千鶴・奥村公弥子・岩本容子

日本第四紀学会ホームページ <http://quaternary.jp/> から第四紀通信バックナンバーの PDF ファイル  
を閲覧できます。

日本第四紀学会事務局

〒 169-0072 東京都新宿区大久保 2 丁目 4 番地 12 号 新宿ラムダックスビル 10 階  
株式会社春恒社 学会事業部内

E-mail : daiyonki(at)shunkosha.com 電話 : 03-5291-6231 FAX : 03-5291-2176